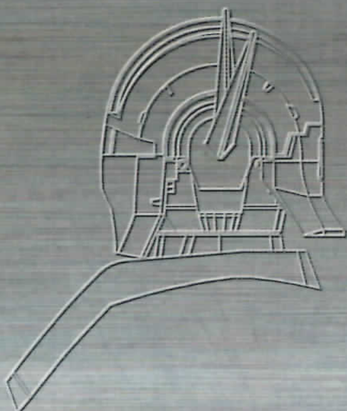
MOBILE SUIT
MSN-02
# ZEONG

PRINCIPALITY OF ZEON
MOBILE SUIT FOR NEWTYPE



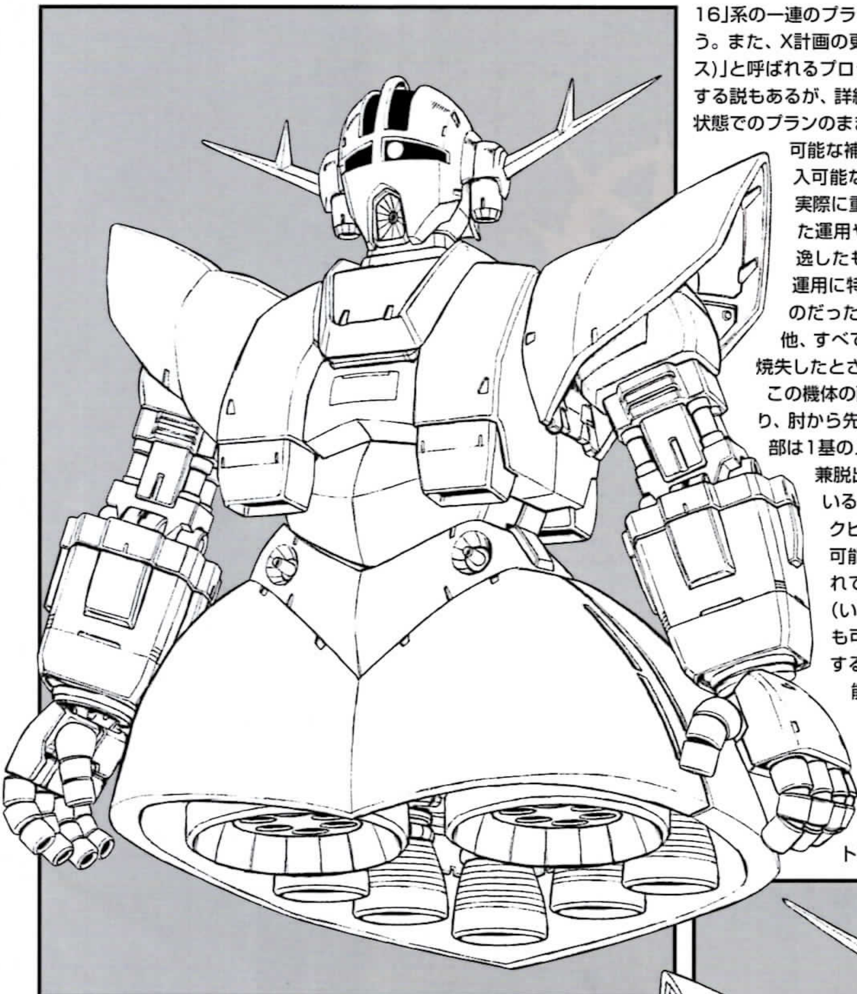
MG
MASTER GRADE

ジオン公国軍
ニュータイプ専用モビルスーツ
MSN-02「ジオング」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

BANDAI

BANDAI 2002 MADE IN JAPAN

0112815



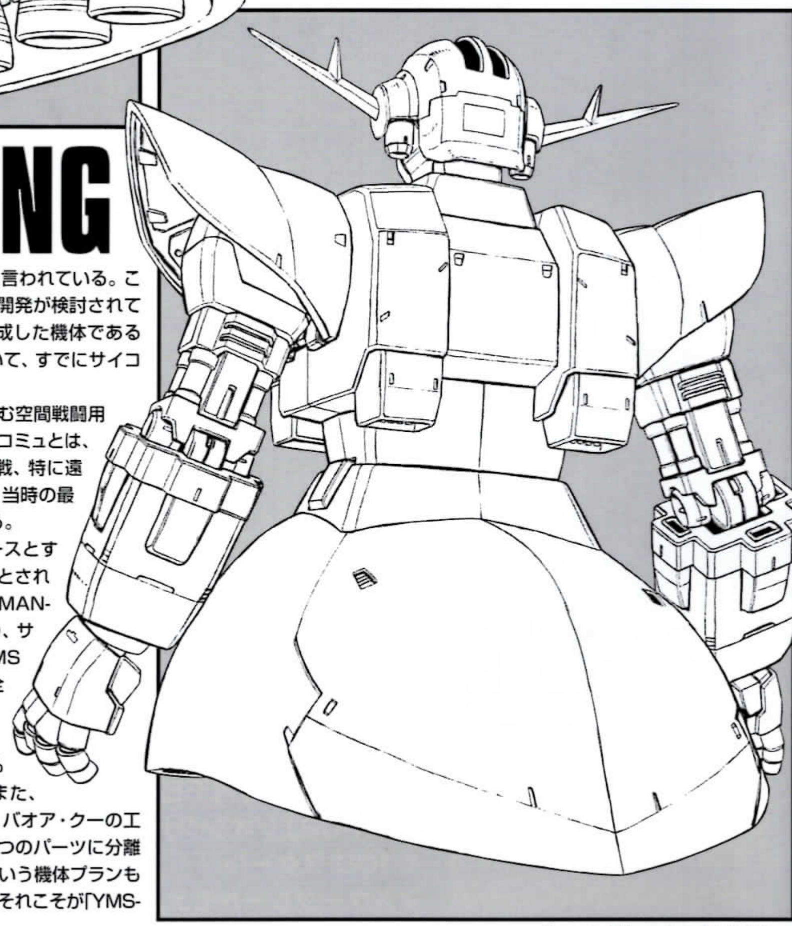
# MSN-02 ZEONG

MSN-02ジオングは、公国軍が投入した最後のMSであると言われている。この機体は、YMS-16系などの機体計画が提案された当初から開発が検討されていたもので、度重なる紆余曲折と計画変更を経てようやく完成した機体である(最も初期の構想とされる「MS-16X」と呼ばれるプランにおいて、すでにサイコミュ機能の搭載が前提とされている)。

この機体の最大の特徴はサイコミュの搭載であり、MSを含む空間戦闘用機動兵器のひとつの究極の形であると言うことができる。サイコミュとは、ミノフスキー粒子散布技術の発達に伴って無効化された電子戦、特に遠隔誘導技術をほぼ完璧に代替するシステムであり、逆説的に、当時の最新兵器であったMSをも遥かに凌駕する究極の機動兵器である。

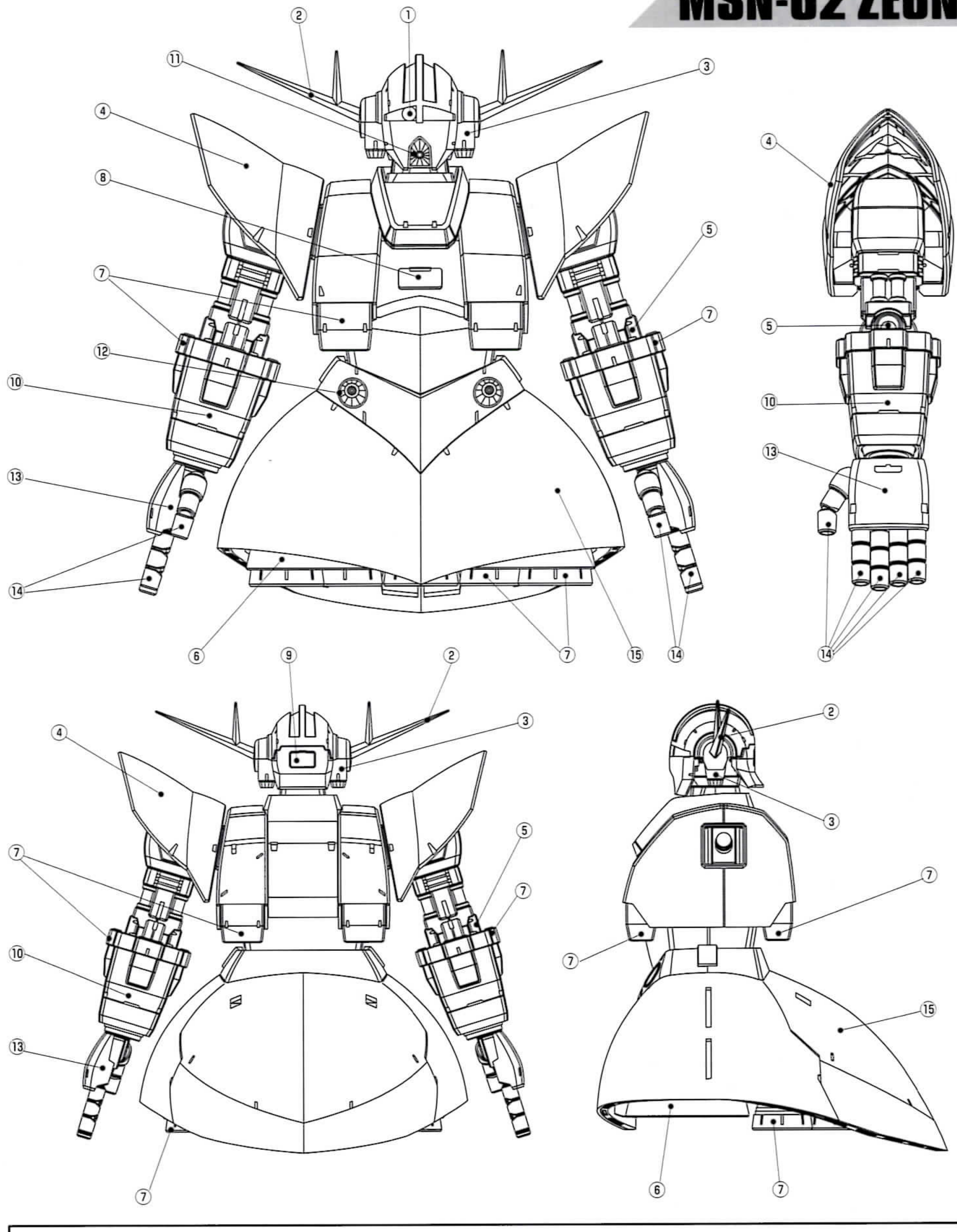
この機体の開発は非常に難航し、その途上で、ザクⅡをベースとする試作機MS-06Z、あるいはMSN-01などが試作されていたとされる。当時、サイコミュそのものが、MAN-03ブラウ・ブロや、MAN-08エルメスなどでようやく実用化が達成されたばかりであり、サイコミュデバイス自体の小型化も困難であったため、機体もMSとしては巨大なものとなってしまった。脚部まで完成すれば、全高は35mに達していたとされるが、前述したプランの中には、すでに脚部をオミットした構想も存在していたのである。ア・バオア・クーの格納庫において、シャアに対して技官が「100%の能力を発揮できる」と言ったのもあながち方便ではない。また、同型機が他に2体、脚部そのものも1体分が完成しており、ア・バオア・クーの工廠において装備予定だったという説もある。加えて、機体が7つのパーツに分離し、そのすべてがワイヤーレスでのオールレンジ攻撃を行うという機体プランも存在していたらしく、仕様書の存在なども取りざたされている。それこそが「YMS-16」系の一連のプランとは一線を画す「MS-16X計画」の究極の目的であるという。また、X計画の更なる"切り札"という意味で「Trumpf X(トルムプフ・イクス)」と呼ばれるプロジェクトが存在し、機体が7つに分離する計画はそちらだとする説もあるが、詳細は不明である。この機体が脚部を持つ、いわゆるフル装備状態でのプランのまま完成していたとしても、全高が35mにもおよぶMSを積載可能な補給艦も航宙空母も存在していなかった当時においては、投入可能な局面もかなり限定されたであろうことは想像に難くない。実際に重力下戦闘に対応できたかどうかにも疑問が残る。そういった運用や兵站などの側面から見ても、ジオングはMSとして常軌を逸したものだったのである。むしろ、MA(モビル・アーマー)的な運用に特化させた技術陣の判断は、当時の戦況からすれば最善のものだったと言えるだろう。ちなみに、ガンダムに撃破された機体の他、すべての試作機と脚部パーツはア・バオア・クー攻防戦において焼失したとされている。

この機体の両腕は、有線サイコミュ誘導の5連装メガ粒子砲となっており、肘から先を切り放してのオールレンジ攻撃が可能である。また、頭部は1基のメガ粒子砲を備えた火器管制およびサイコミュ用コクピット兼脱出装置となっており、データとパイロットの回収率を高めている。ニュータイプパイロットのための感応波センサーは頭部コクピットに備えられており、頭部コクピットからすべての制御が可能である。ただし、サイコミュの主機はボディ部分に積載されており、頭部との接続が途絶えた場合にはミノフスキー通信(いわゆる無線式サイコミュ)による遠隔制御に切り替えることも可能である。ボディパーツは腰部に2基のメガ粒子砲を装備するほか機体制御用のコクピットが存在しており、ニュータイプ能力の無いパイロットが搭乗する場合はこちらで機体制御を行い、頭部コクピットにはガンナーが搭乗してマニュアルでオールレンジ攻撃端末を操作することになっていた。双方のコクピットは、機体自体が航宙艇並の規模だったこともあってか往還可能となっている。ただし、試作機であったためか、機体の起動や初期設定などはボディ側のコクピットで行う必要があったようだ。



Conceptual illustration :Katoki-Hajime

# MSN-02 ZEONG

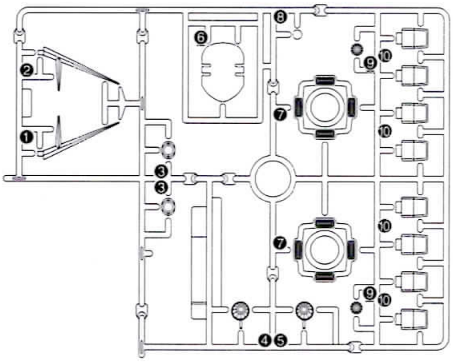


| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ①モノアイカメラ | ④ショルダーアーマー | ⑦サブスラスター | ⑩有線式ビットユニット | ⑬5連装メガ粒子砲 |
| ②ホーンアンテナ | ⑤エルボージョイントアーマー | ⑧フロントコクピットハッチ | ⑪頭部メガ粒子砲 | ⑭マニピュレーター |
| ③頭部ラウンドバーニアスラスター | ⑥メインスラスター | ⑨リアコクピットハッチ | ⑫腰部メガ粒子砲 | ⑮スカートアーマー |

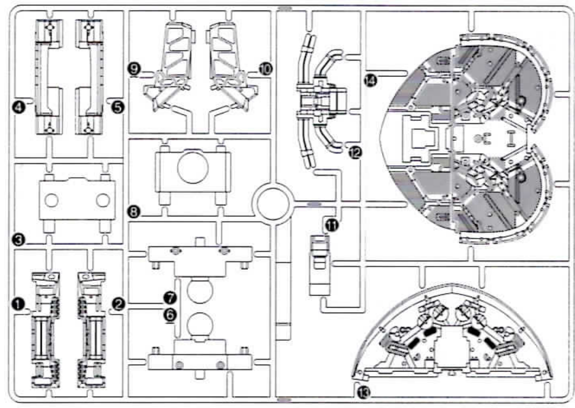
注）この機体は“ニュータイプの発現”という、公国の原理的ドグマ（教条的な独断）を証明する究極のMSを目指して開発されたためもあって、国名から“ジオング”と名付けられたとする説が一般的である。その機体にジオン・ダイクンの実子であるシャアが乗るのも歴史の皮肉であろうか。

# パーツリスト

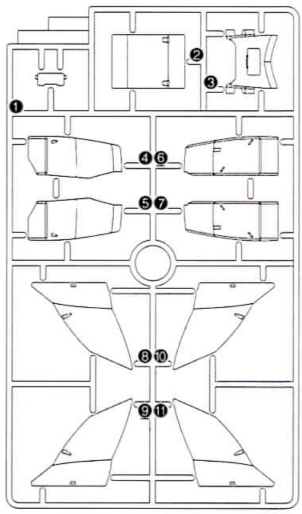
Aパーツ (スチロール樹脂：PS)



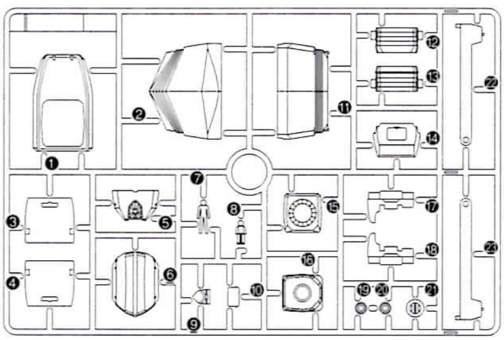
Bパーツ (スチロール樹脂：PS)



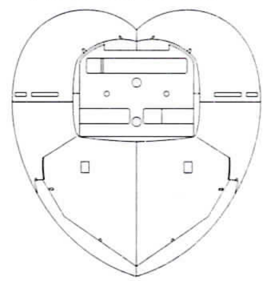
Cパーツ (スチロール樹脂：PS)



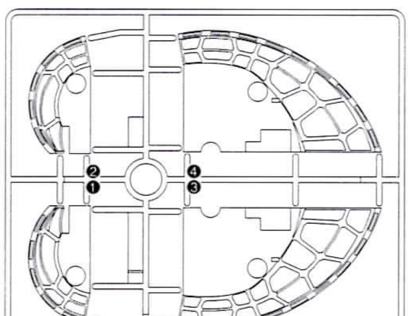
Dパーツ (スチロール樹脂：PS)



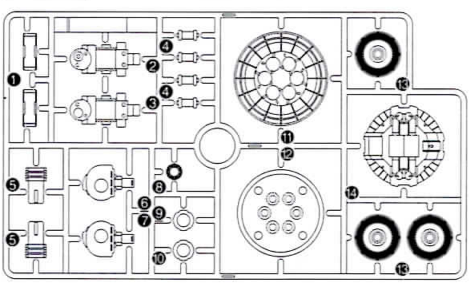
Eパーツ (スチロール樹脂：PS)



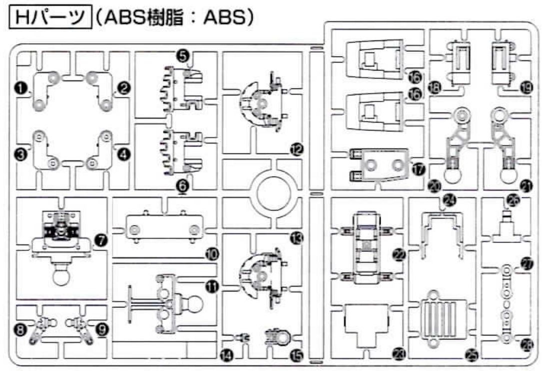
Gパーツ (スチロール樹脂：PS)



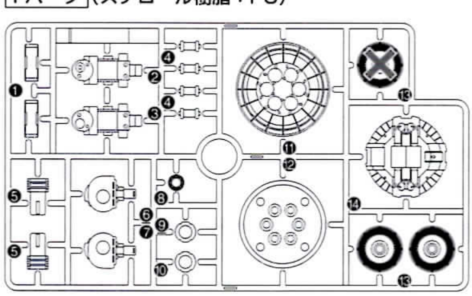
Fパーツ (スチロール樹脂：PS)



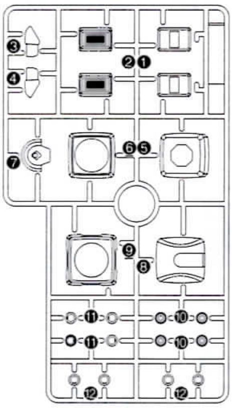
Hパーツ (ABS樹脂：ABS)



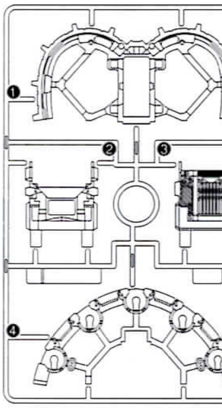
Fパーツ (スチロール樹脂：PS)



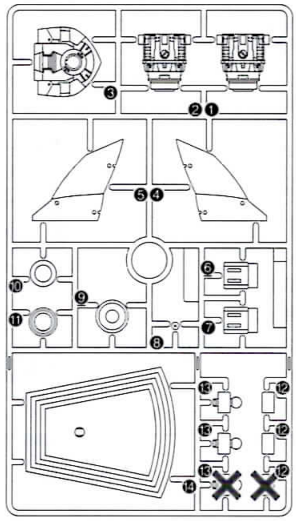
Iパーツ (×2)
(スチロール樹脂：PS)



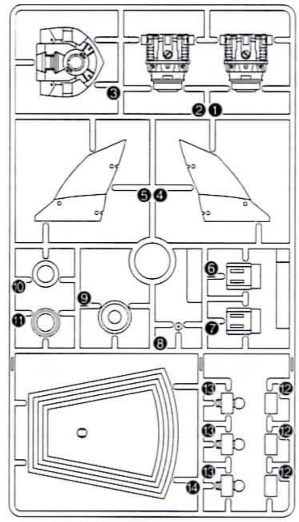
Jパーツ
(スチロール樹脂：PS)



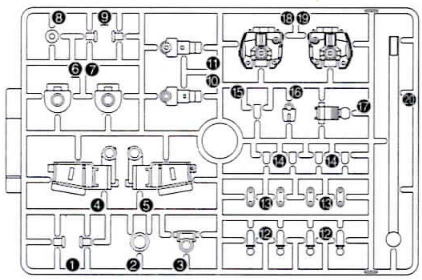
Kパーツ
(スチロール樹脂：PS)



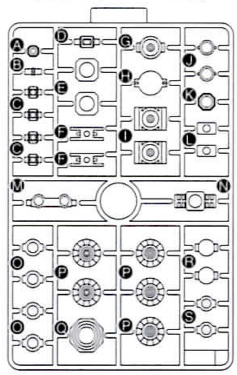
Kパーツ
(スチロール樹脂：PS)



Lパーツ (×2)
(ABS樹脂：ABS)

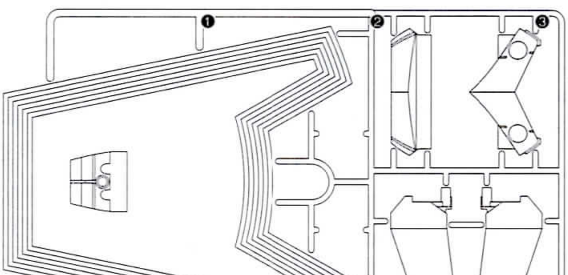


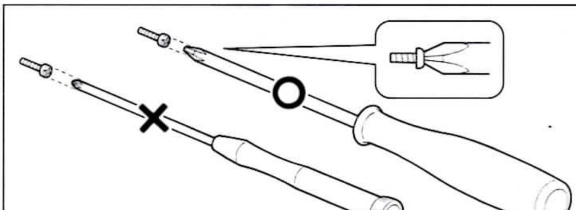
PC-127
(ポリエチレン：PE)



マーキングシール………… 1枚
ビスTP2×5座付… 10個+2個
ビスTP2×8………… 1個+1個
ビスTP2.6×6……… 2個+1個
リード線………… 2本
(塩化ビニル樹脂：PVC)

Mパーツ (スチロール樹脂：PS)





《お買い上げのお客様へ》部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書（**裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。**）にて下記までお申し込みください。代金は、料金表通りです。為替証書は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先　(株)バンダイ静岡相談センター
〒424-8735 静岡県清水市西久保305　TEL0543-65-5315

《料金表》●部品代は1個の料金です。

| 部品番号 | B⓮・G❸・G❹ | E❶ | M❶ | その他の部品 |
|---|---|---|---|---|
| 部品代 | 各100円 | 100円 | 100円 | 各40円 |
| 郵送料 | 140円 | 200円 | 240円 | 120円 |

2002.7/T・ON

For Japanese use only.

部品注文カード　0112815-6000
1/100SCALE MGシリーズ
MSN-02 ジオング

必要な部品の記号･番号･数量をかく

●注文された理由(○で囲む) (こわした･なくした)

日中ご連絡可能な電話番号
(　　-　　-　　)
'02.07

## ⚠ 注 意

**必ずお読みください**

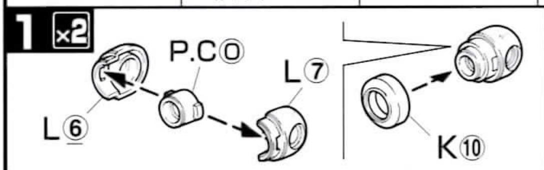
- ●この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- ●小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ●ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- ●小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

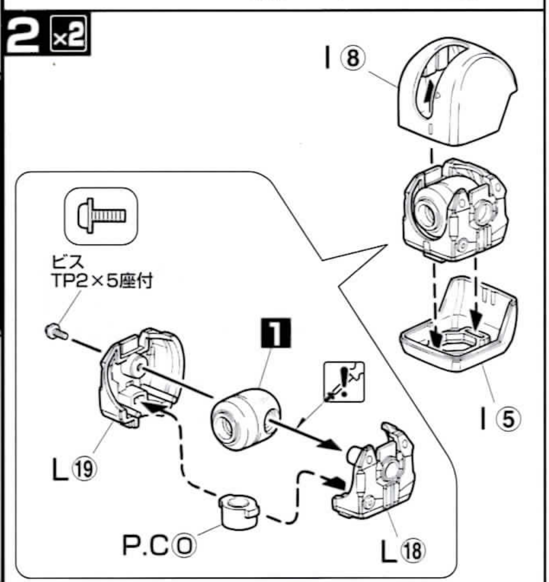
※このキットの組み立てには＋（プラス）ドライバーを使いますので別にご用意ください。

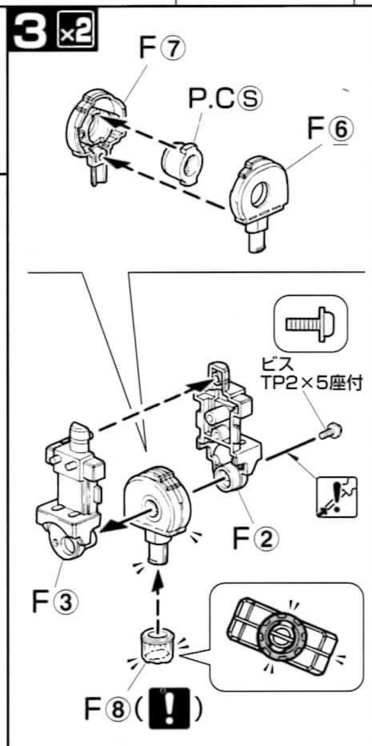
### 〈組み立てる時の注意〉

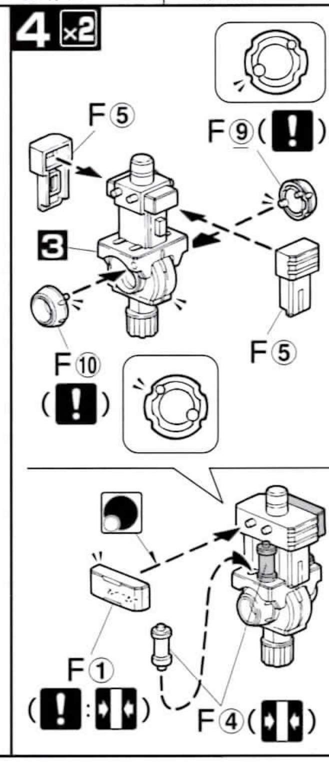
- ●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- ●部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- ●部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- ●部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- ●塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

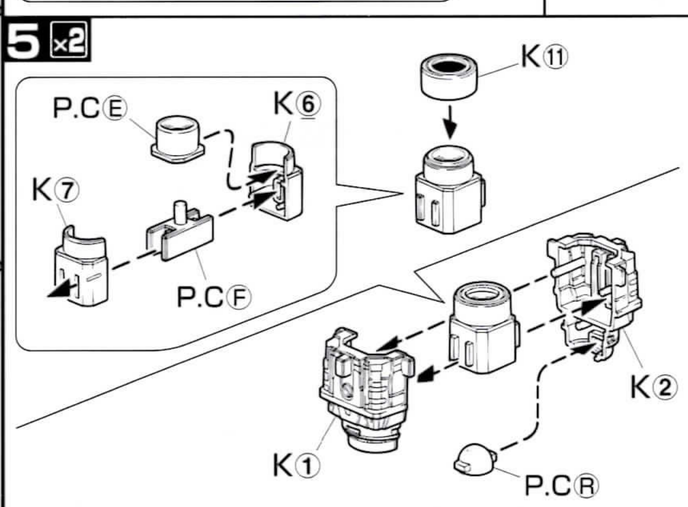


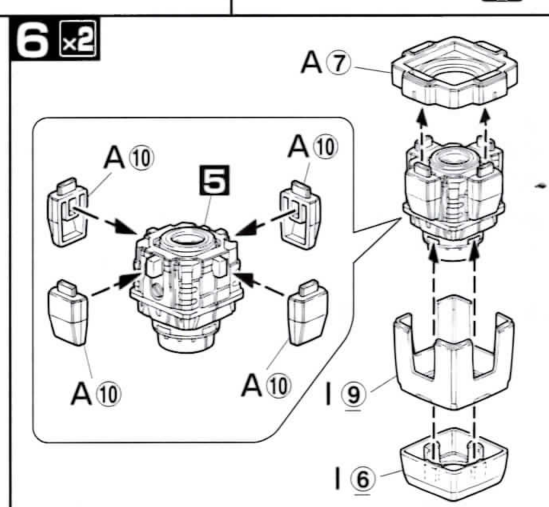



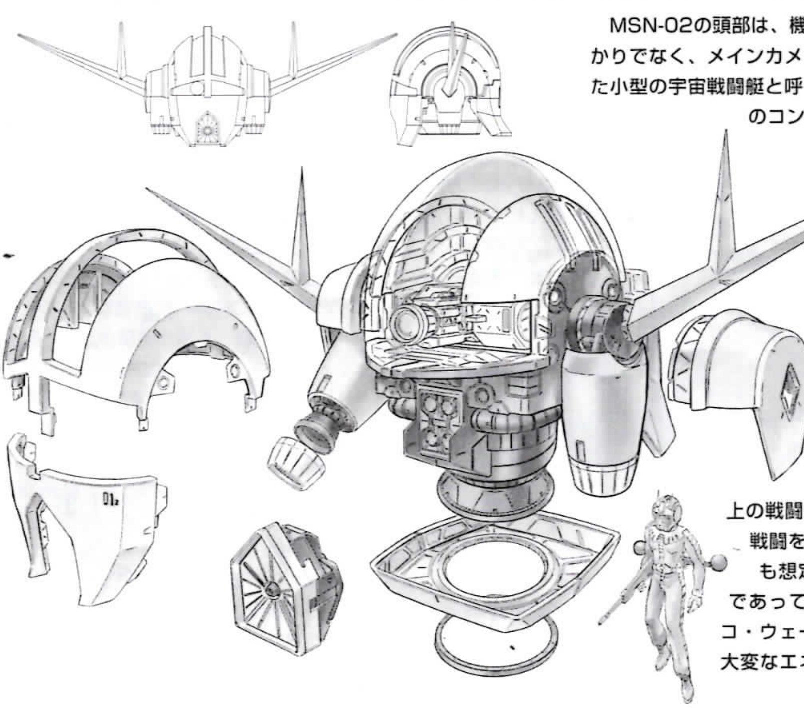



# HEAD UNIT

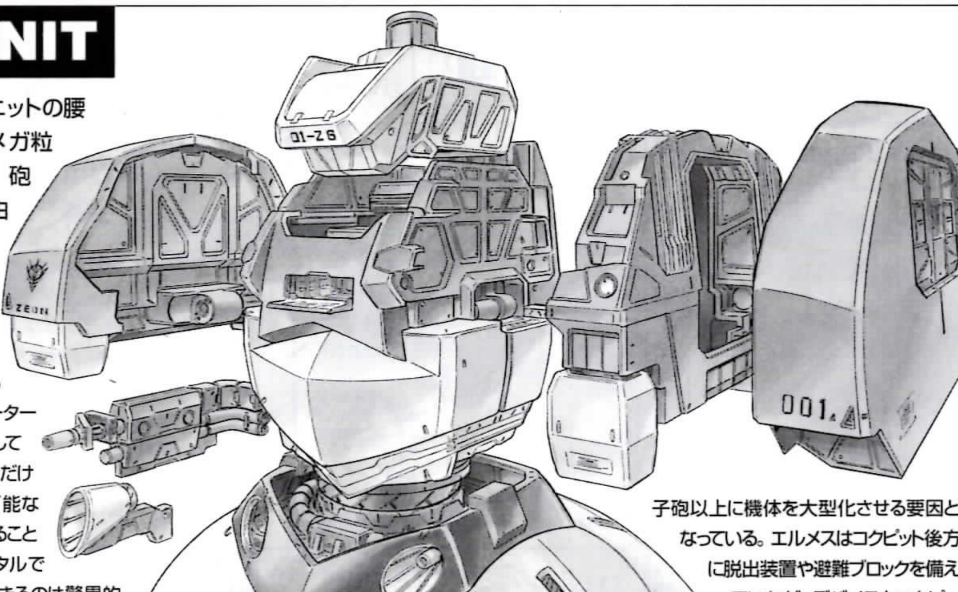
ジオングの頭部は、非常時には脱出装置として機能するが、実際にはオールレンジ攻撃の一画を担う超小型の宇宙戦闘艇でもあると言える。



MSN-02の頭部は、機体とは独立したコクピットブロックであるばかりでなく、メインカメラやメガ粒子砲、移動用バーニアなどを備えた小型の宇宙戦闘艇と呼べるものであり、その上サイコミュデバイスのコントロールユニットでもある。通常、それらの稼働に必要なエネルギーはボディユニットから供給されているが、分離した場合に備え、複数の高容量コンデンサーとエネルギーCAPシステムを共用し、動力や武装のバックアップとしている。それらを消費し切るまえにボディと再結合すれば、プロペラントの再充填やメガ粒子砲のチャージも可能である。ただし、本体から分離した場合、戦闘艇としての実用稼働時間は60分にも満たないらしく、積載しているプロペラントも量的に脱出や撹乱以上の戦闘には耐えられない。そのため、頭部は直接の戦闘を回避しつつ、各部を遠隔操作するという戦術も想定されていたようだ。ちなみに、非戦闘状況であっても、サイコミュが稼働している場合、サイコ・ウェーブのピックアップや送受信端末は恒常的に大変なエネルギーを消費しているらしい。

# BODY UNIT

ジオングのボディユニットの腰部には、2門の強力なメガ粒子砲が装備されている。砲身の先端には相応の自由度があり、対地、対空兵器としても使用可能である。




MSN-02のボディユニットは、中型の航宙戦闘艇そのものであり、高出力のジェネレーターと豊富なプロペラントを内装している。武装はメガ粒子砲2門だけだが、標準的なMSが携行可能なビーム・ライフルが1挺であることを考えれば、ジオングがトータルで13門のメガ粒子砲を稼働できるのは驚異的である。ちなみに、ジオングが装備するメガ粒子砲は、基本的にすべて"キアM-33E型"と呼ばれるユニットをベースとしている。ただし、それぞれの配置に応じ、消費エネルギーや集束装置、エネルギーバッファなどが組み合わされ、最適な状態で稼働できるよう調整されている。腰部に装備されているユニットには、ジェネレーターからほぼダイレクトに接続された大容量のエネルギーコンバーターが圧縮ユニットの前段に設けられており、高出力での射出および速射、連射が可能となっている。

他に、MAN-08エルメスに搭載されていたサイコミュシステムとほぼ同等のスペックを持つデバイスが積載されており、実を言えば、腕部の5連メガ粒子砲以上に機体を大型化させる要因となっている。エルメスはコクピット後方に脱出装置や避難ブロックを備えていたが、デバイスとコクピットが隣接していたためトータルでの専有体積はジオングより少ないのである。ジオングは、基本的に頭部で機体を制御するように設計されているが、ボディ側のコクピットも設備的には頭部のものと同等であり、それぞれに送受信端末を装備しているため、機体そのものが巨大化してしまった。無論それは、それらの要求に応じた規模と出力のジェネレーターを積載するためでもあったことは言うまでもない。

Mechanism illustration : BEE-CRAFT

Parts Name

Parts List

Head Unit

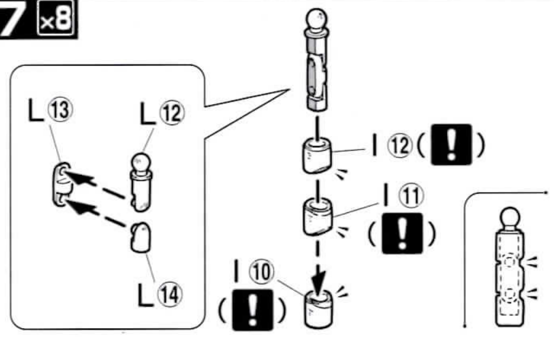
Arm Unit

Body Unit

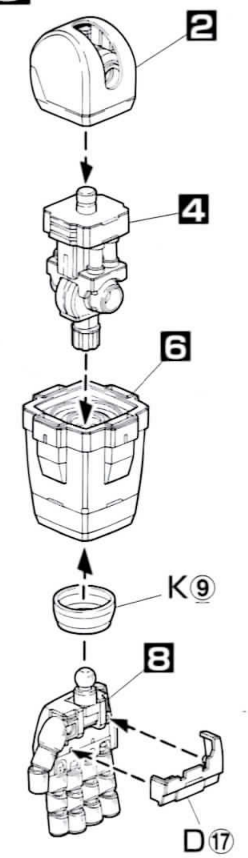
Skirt Vernier

FinalAssemble

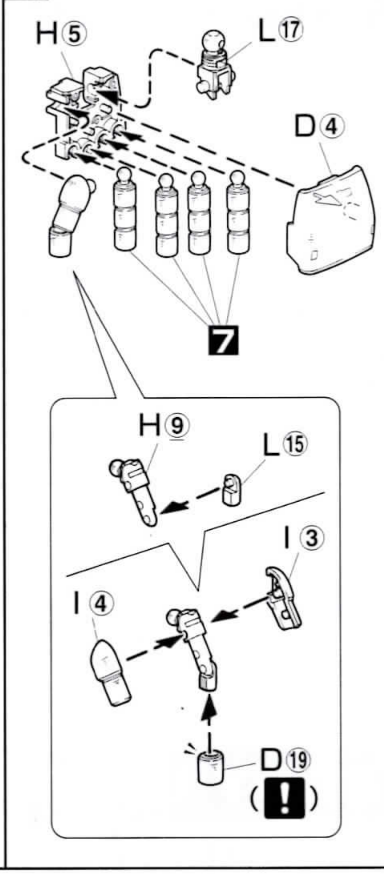
**7** ×8



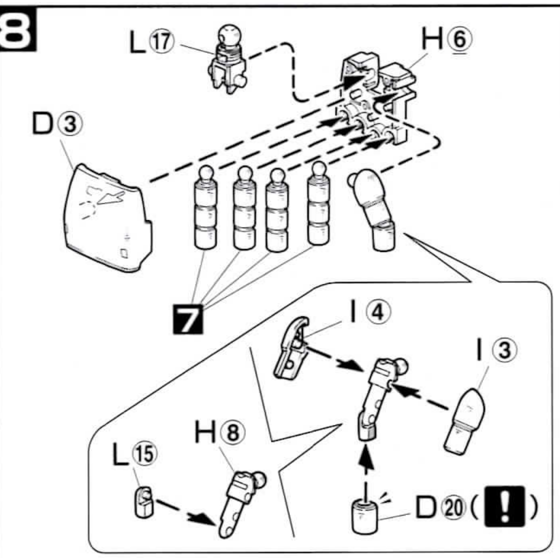

**9**



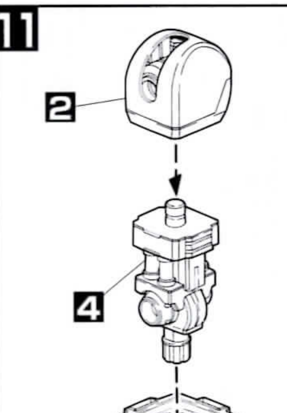

**10**



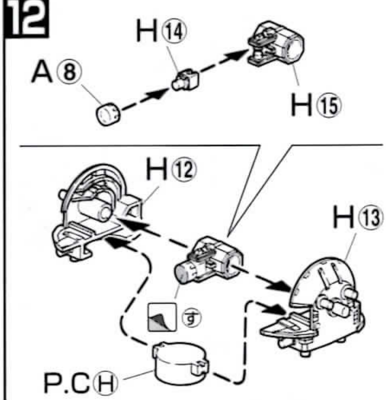

**8**



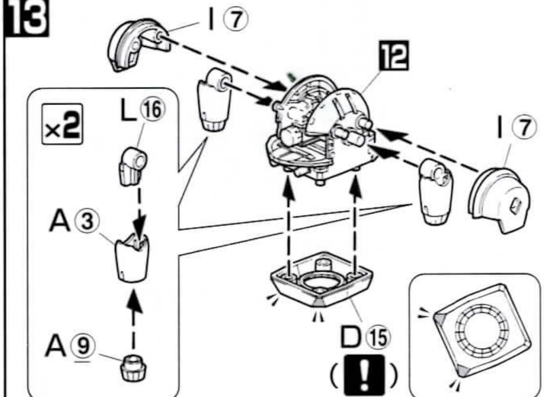

**11**



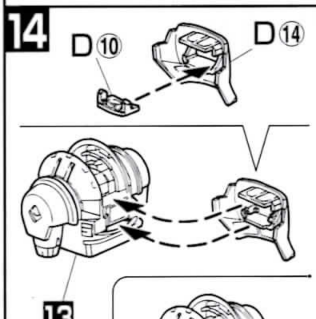

**12**



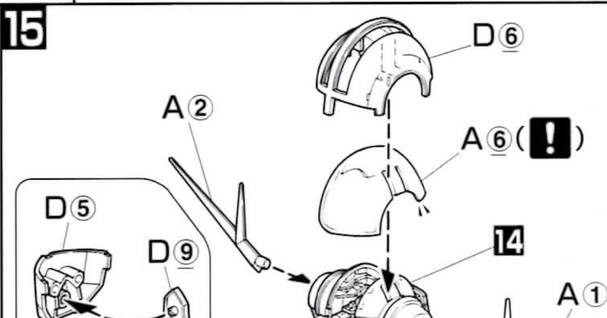

**13**




**14**



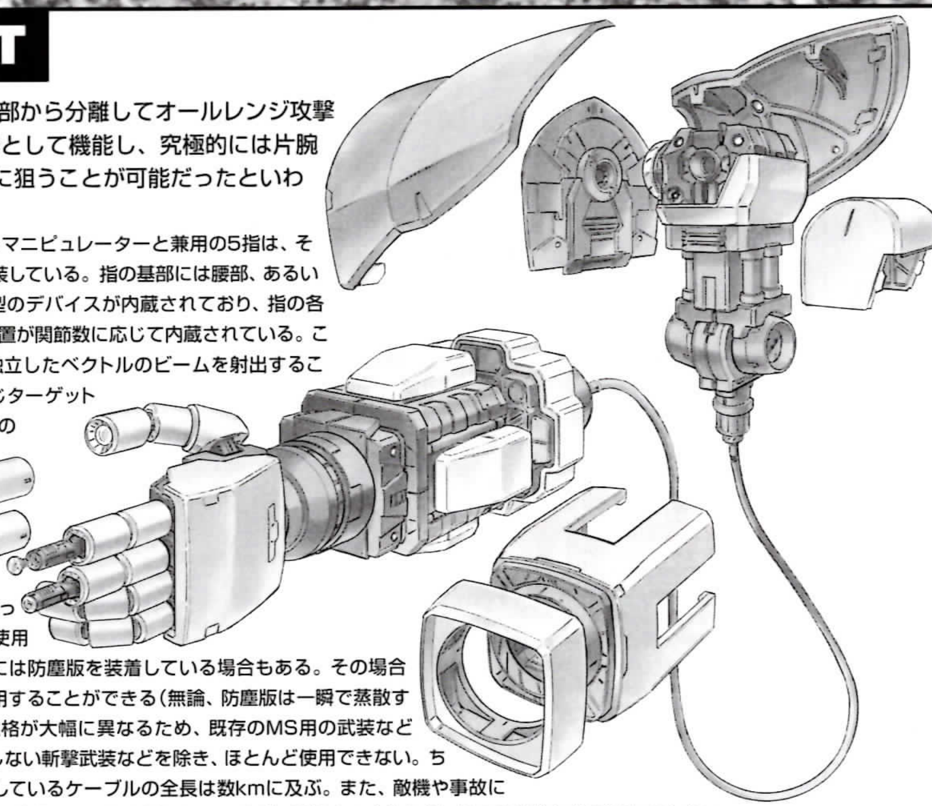

**15**



# ARM UNIT

ジオングの両腕は、上腕部から分離してオールレンジ攻撃を展開する有線ビット兵器として機能し、究極的には片腕で5つのターゲットを別個に狙うことが可能だったといわれている。

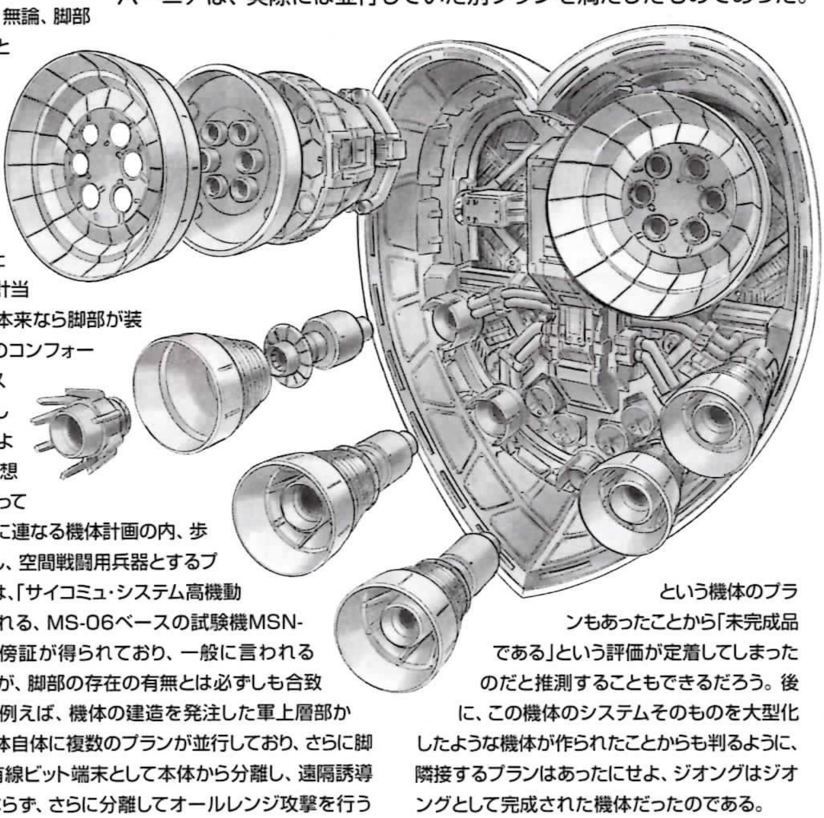
MSN-02の腕部に装備されるマニピュレーターと兼用の5指は、それぞれが強力なメガ粒子砲を内装している。指の基部には腰部、あるいは頭部と同様に“キアM-33E”型のデバイスが内蔵されており、指の各関節には強指向性の集束/偏向装置が関節数に応じて内蔵されている。これによって、5指はそれぞれが独立したベクトルのビームを射出することができ、なおかつ、同時に同じターゲットを狙うことも可能である。腕部のエネルギーCAPシステムにエネルギーが充填される際、指の関節内に発生する強力なフィールドのため、指の先端が光って見えることもあるらしい。また、戦況によってはマニピュレーターとしての使用も前提としてあるため、出撃時には防塵版を装着している場合もある。その場合でも、メガ粒子砲は問題なく使用することができる(無論、防塵版は一瞬で蒸散する)。ただし、既存の機体とは規格が大幅に異なるため、既存のMS用の武装などは、特別なエネルギーを必要としない斬撃武装などを除き、ほとんど使用できない。ちなみに、上腕部と下腕部を接続しているケーブルの全長は数kmに及ぶ。また、敵機や事故による切断に備え予備のケーブルも装備していたと言われているが、再接合の方法など、その実効性には不明な点も多い。



# SKIRT VERNIER

ジオングは、U.C.0079年12月31日の出撃時、言わば“脚が付いていない”状態で出撃したと言われているが、装備していたスカートバーニアは、実際には並行していた別プランを満たしたものであった。

MSN-02の完成度は80%であり、上腕部の装甲や脚部ユニットが未装備のままだったと言われている。無論、脚部は他の機体同様、歩行の他、巨大な機動装備としても機能する予定で、ア・バオア・クーの工廠において、腰部関節への実装を待つばかりであったらしい。しかし、実際の構造としてみれば、この機体の股関節部分には脚部を装備するための充分なクリアランスはなく、相当する部位にはプロペラントタンクなどをはじめとするスラスター系の設備が実装されていたのである。スカート後部の5基のバーニアは設計当初から設置される予定のものだったようだが、本来なら脚部が装備されたであろう部位に装備されている2基のコンフォーマルバーニアは、脚部そのものの代替デバイスなのである。つまり、少なくとも、実際に出撃したジオングの腰部より下は、“歩行”を想定した構造にはなっていない。ジオングに連なる機体計画の内、歩行機能をオミットし、空間戦闘用兵器とするプランがあったことは、「サイコミュ・システム高機動試験型」と呼称される、MS-06ベースの試験機MSN-01の存在からも傍証が得られており、一般に言われる「80%の完成度」が、脚部の存在の有無とは必ずしも合致しないのである。例えば、機体の建造を発注した軍上層部からすれば、この機体自体に複数のプランが並行しており、さらに脚部は下腕部同様有線ビット端末として本体から分離し、遠隔誘導可能となるのみならず、さらに分離してオールレンジ攻撃を行うという機体のプランもあったことから「未完成品である」という評価が定着してしまったのだと推測することもできるだろう。後に、この機体のシステムそのものを大型化したような機体が作られたことからも判るように、隣接するプランはあったにせよ、ジオングはジオングとして完成された機体だったのである。



MSN-02 PLAN PERFECT



## ROLLOUT

U.C.0079年12月31日。公国軍の宇宙要塞ア・バオア・クーを巡る連邦軍との攻防戦は熾烈を極めていた。「ジオングを使ってみるか？80%しか完成していないようだが」「ジオング？」ソロモン海域における戦闘でガンダムに敗れ、乗機のゲルググを失ったシャア大佐は、キシリアからの提案で試作MSを駆ることとなった。「80%？冗談じゃありません。現状でジオングの性能は100%出せます！」「脚が付いていない」シャアの指摘に技官は息巻いた。「あんなもの飾りです。偉いヒトにはそれが判らんのですよ！」キシリアが言うには、このMSにはエルメスやブラウ・ブロに採用されたサイコミュが部分的に採り入れられているようだ。キャットウォークからジオングのコクピットに流れ飛ぶシャアに向かい、技官が彼なりの誠意なのだろう、声をかける。「気休めかも知れませんが、大佐ならうまくやれますよ！」「ありがとう。信じよう」不思議と、シャアは微笑みながら応えていた。



## ALL RANGE ATTACK

シャアのジオングは、第34MS隊とともにSフィールドに出現した連邦艦隊の迎撃に出撃した。「さて問題は、私に明確なニュータイプの素養があるかどうかだが……」不安を感じながらも、シャアは敵艦のサラミスめがけトリガーを引いた。「沈めぃ！」ジオングの手から放たれた5条の光軸が瞬く間に数隻を沈める。「よし！…しかし、奴はどこにいるのだ？」振り仰いだシャアの視界を白いMSがかすめる。「奴め！」リック・ドムを従え、シャアはガンダムに襲いかかる。「！！大物だ、シャアか!?」すれ違った刹那、後ろからのビームがガンダムを掠める。「後ろから？何だ！」間髪入れずジオングがビームを撃つ。「シャア以上のニュータイプみたいだ…!?しかしっ！」アムロはジオングには構わず任務を優先する。「今はア・バオア・クーに取り付くのが先だ！」ガンダムは、宇宙に浮かぶ巨大な岩塊へ突進していった。





## LAST SHOOTING

ア・バオア・クーへの侵入は果たしたものの、激しい攻防の末、ガンダムは左腕と頭部を失い、ジオングは頭部パーツを残すのみとなっていた。しかし、ジオングは攻撃能力を失っておらず、アムロはシャアが未だガンダムを狙っていると感じていた。「シャア……いるな？」ガンダムを自動攻撃にセットすると、アムロはコクピットから出て坑道の陰に身を潜ませる。ガンダムが直交する別の坑道との交点に達した瞬間、ガンダムの直上からジオングの頭部がメガ粒子砲を発射していた。ガンダムもまた、残った右手でビーム・ライフルを撃つ。交錯する攻防の両端では、ジオングとガンダムが互いのビームで灼かれていた。振り上げた右手ごと、ガンダムはその場に崩折れ、ジオングの隻眼は爆煙に消えていった。しかし、シャアとアムロの戦いの決着はついていなかった……。

## ACTION POSE



## BATTLE POSE



# PAINTING

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー(「ジオング」用、その他カラーセット)をお使いください。

- 本体等ライトグレー部の塗装色。ミディアムブルー(60%)+ホワイト(40%)+レッド少量
  ※またはガンダムカラー ブルー18
- 胸、肩等ブルー部の塗装色。インディブルー(80%)+ブラック(20%)+レッド少量
- バーニア等グリーン部の塗装色。グリーン(70%)+ニュートラルグレー(30%)
  ※またはガンダムカラー グリーン9
- 腕等イエロー部の塗装色。イエロー(60%)+ホワイト(30%)+オレンジイエロー(10%)
- アンテナ等レッド部の塗装色。レッド(100%)
- 腹ブラック部の塗装色。ミッドナイトブルー(100%)
- メガ粒子砲パープル部の塗装色。ホワイト(70%)+パープル(30%)+レッド少量
- メカ内部等ダークグレー部の塗装色。ネービーブルー(100%)+ブラック少量
- スカート内部フレーム等ライトグレー部の塗装色。グリーン(50%)+ブラック(30%)+ホワイト(20%)
- バーニア内部ガンメタ部の塗装色。ブラック(60%)+黒鉄色(40%)





## FRONT VIEW



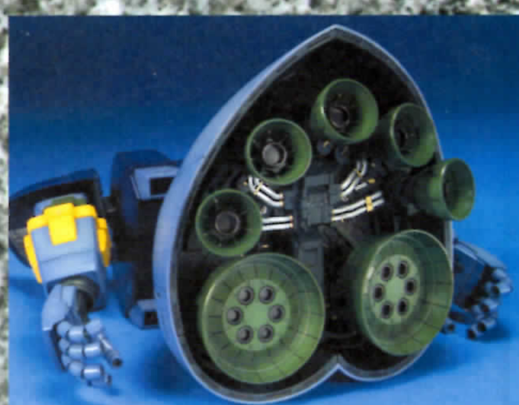

## REAR VIEW





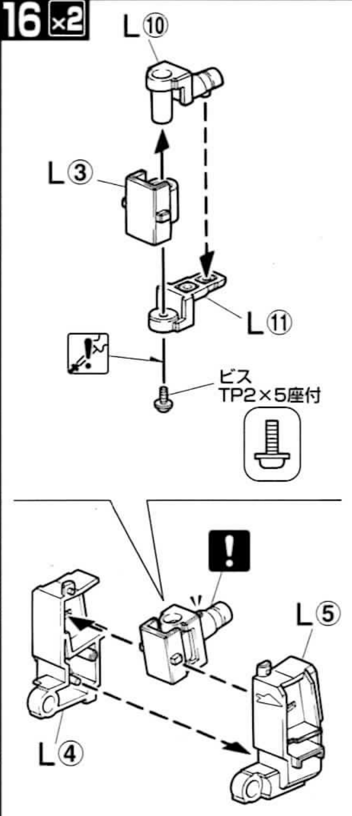


▲腕、内部をはじめ、各所に内部メカニズムを再現。胸部コクピットには、パイロットもセット。

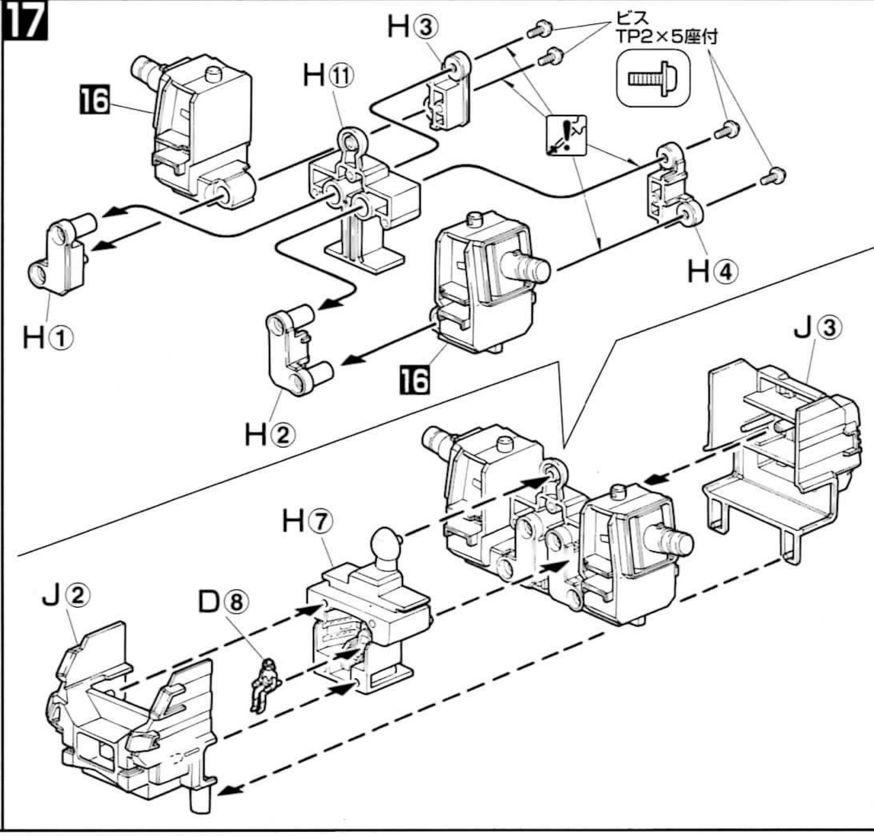


▲スカート内ノズルは、全て可動。5個の小型バーニアのベースメカには、スライドギミックも再現。

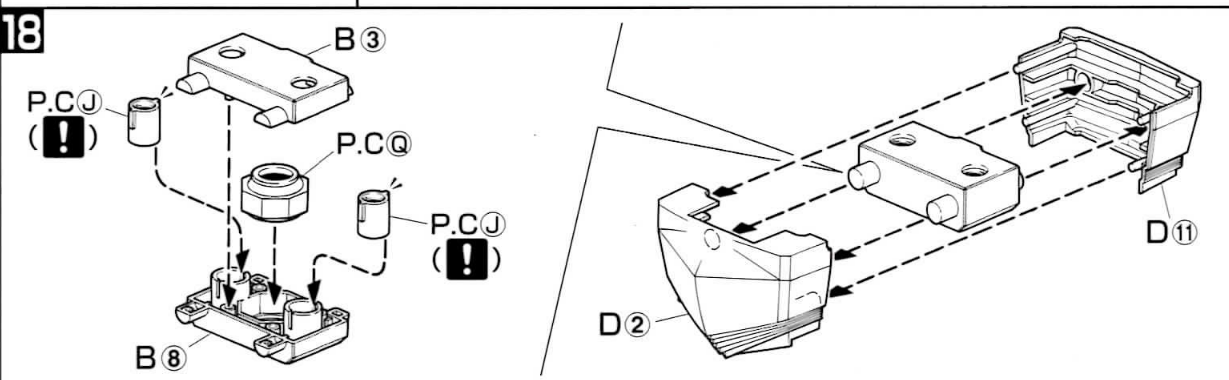
16 ×2


L⑩
L③
L⑪
ビス
TP2×5座付
L⑤
L④

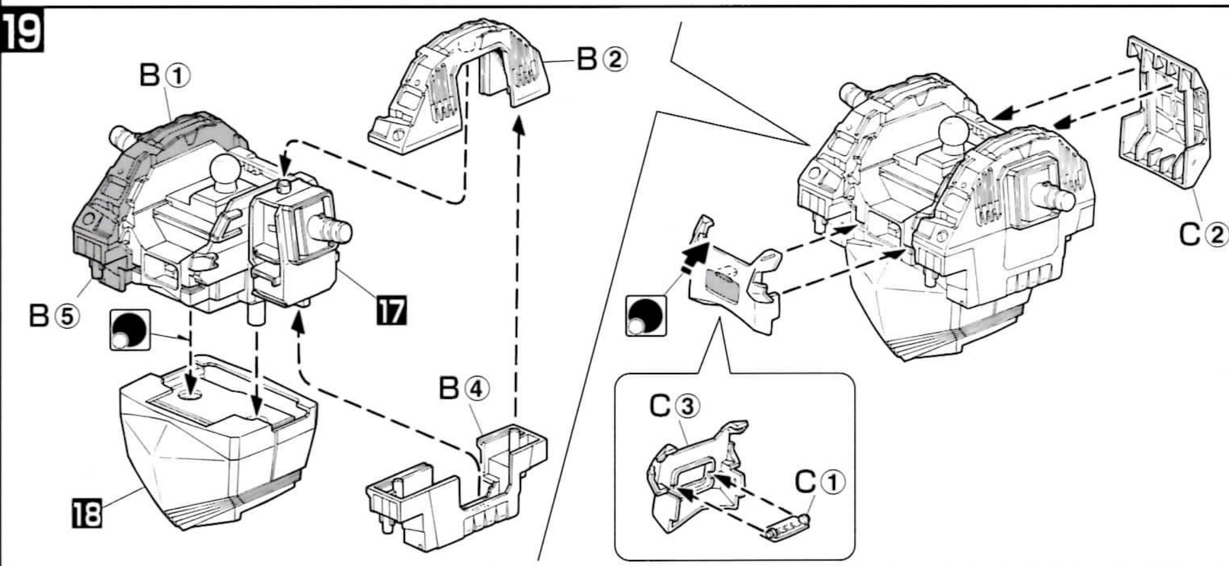
17


16
H③
H⑪
ビス
TP2×5座付
H①
H④
16
H②
J③
H⑦
J②
D⑧

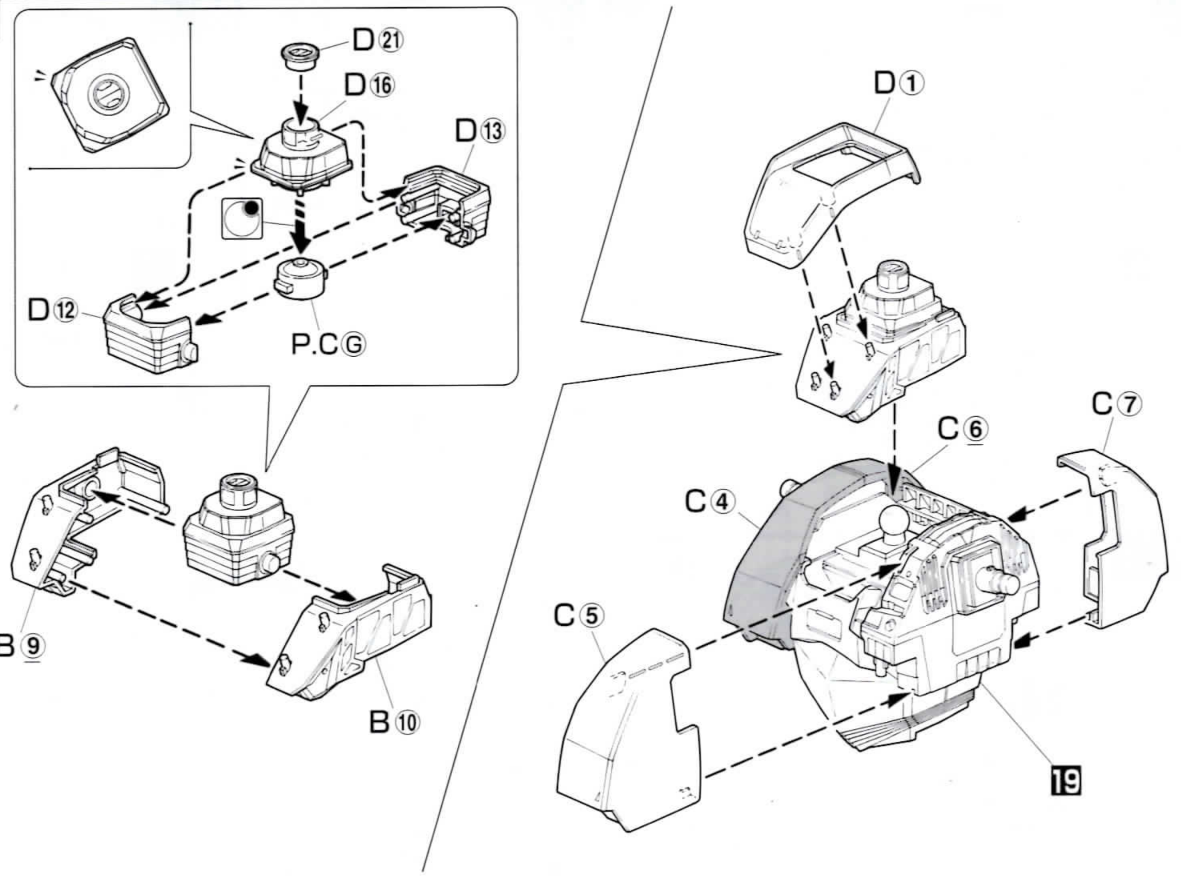
18


B③
P.CⒿ
P.CⓆ
P.CⒿ
B⑧
D⑪
D②

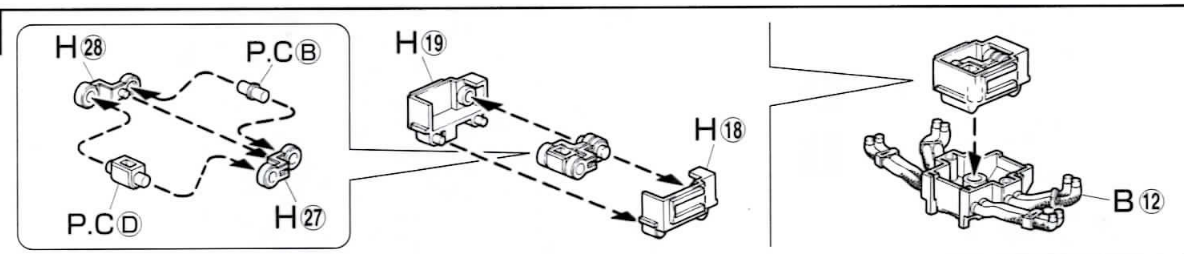
19


B①
B②
B⑤
17
18
B④
C②
C③
C①

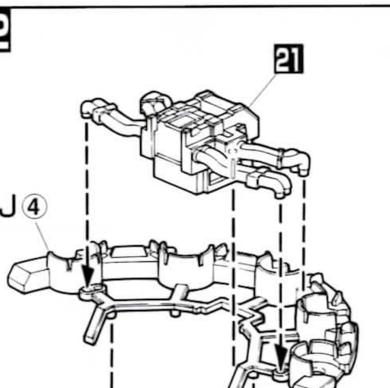
20


D㉑
D⑯
D⑬
D⑫
P.CⒼ
B⑨
B⑩
D①
C⑥
C⑦
C④
C⑤
19

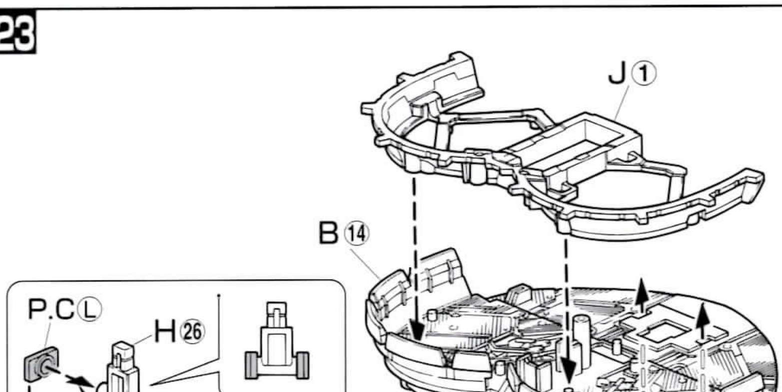
21


H㉘
P.CⒷ
P.CⒹ
H㉗
H⑲
H⑱
B⑫

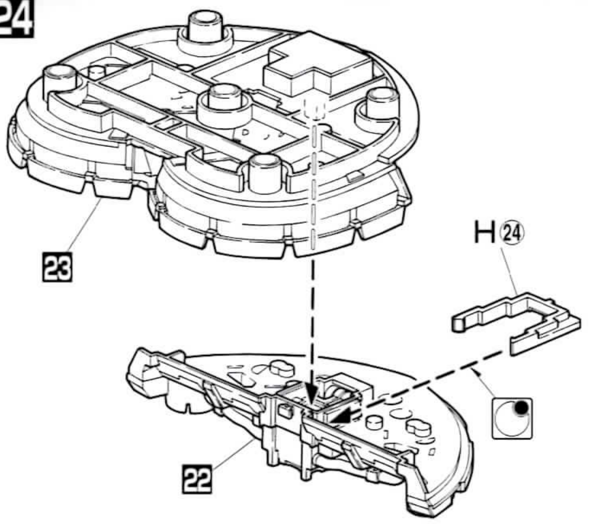
22


21
J④
B⑬

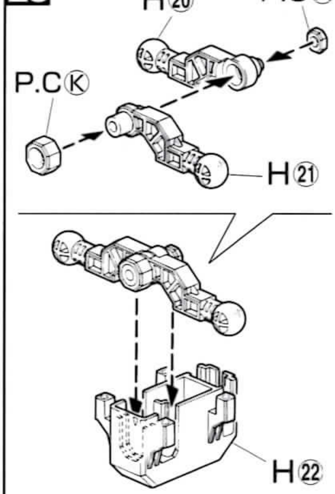
23


J①
B⑭
P.CⓁ
H㉖
P.CⓁ
H㉓

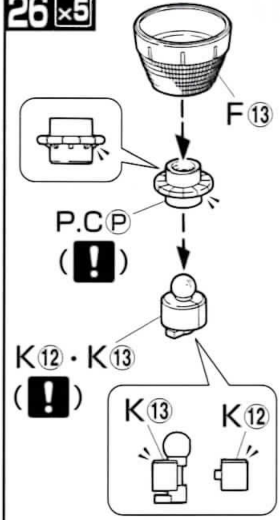
## 24



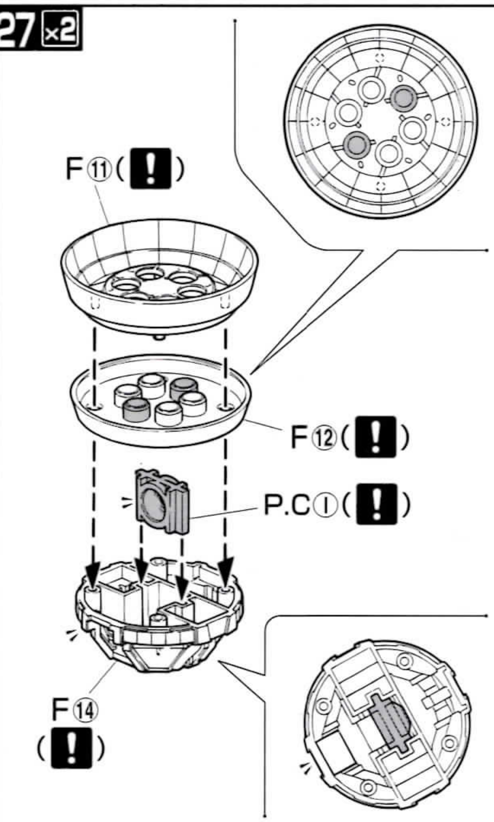

## 25



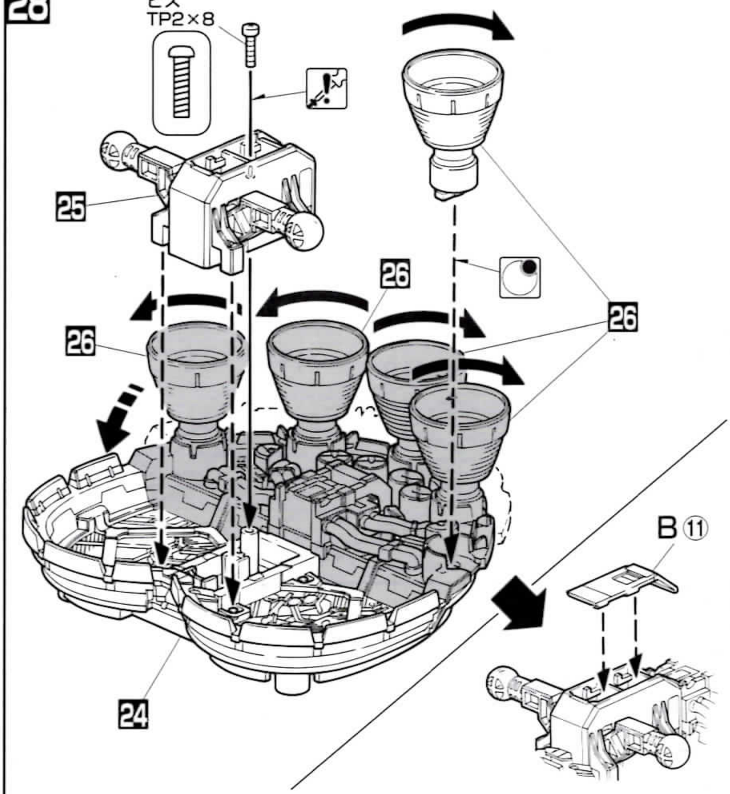

## 26 ×5



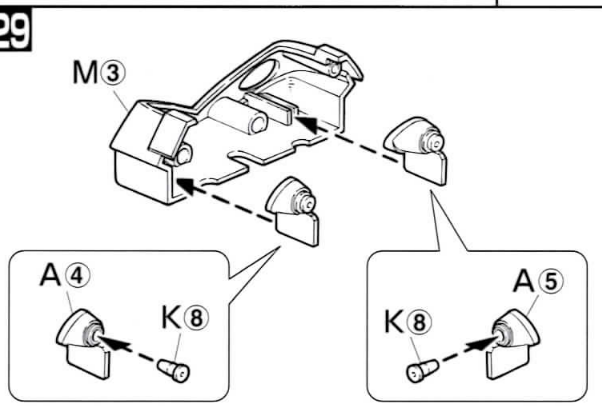

## 27 ×2



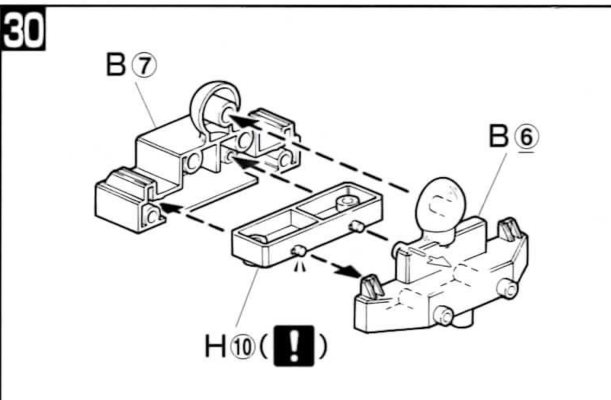

## 28



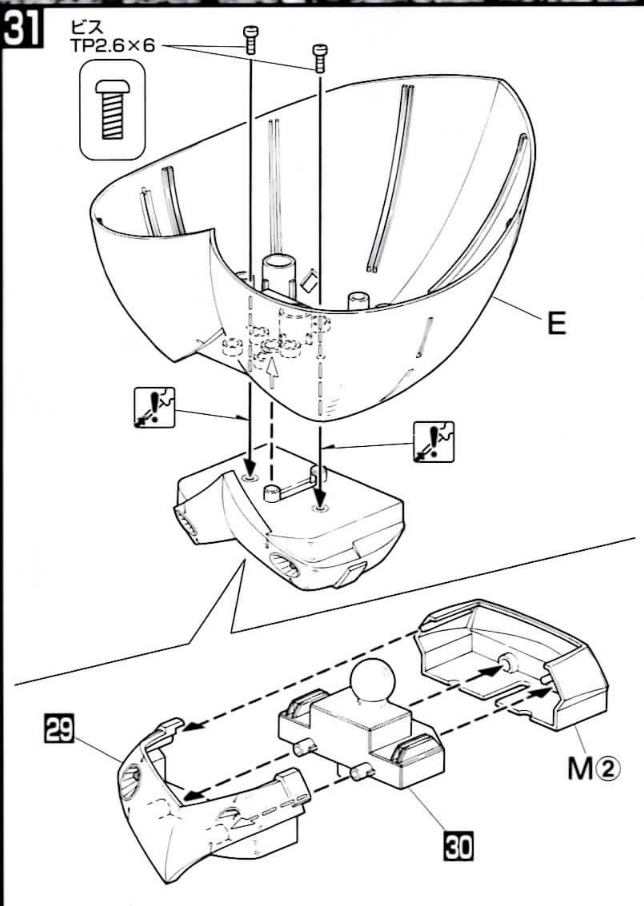

## 29



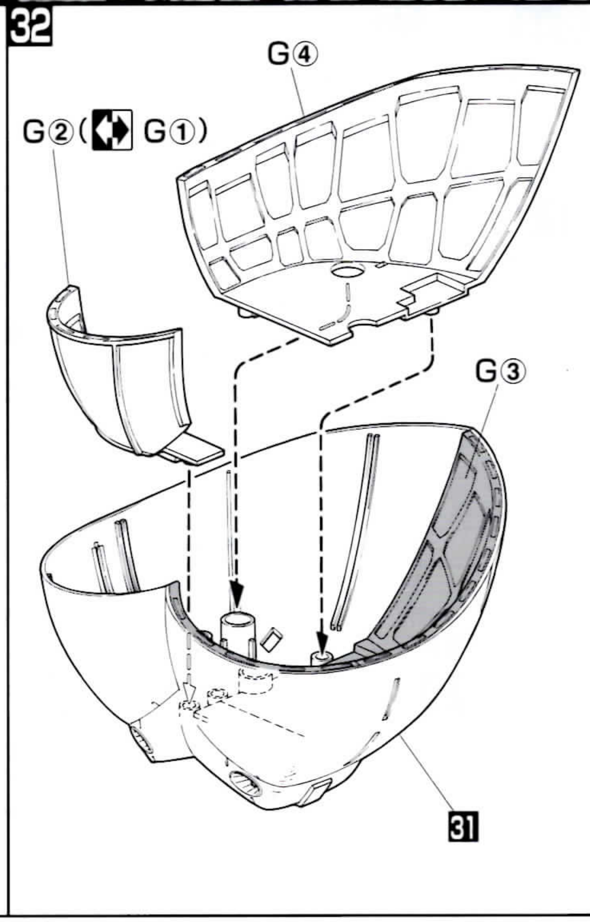

## 30



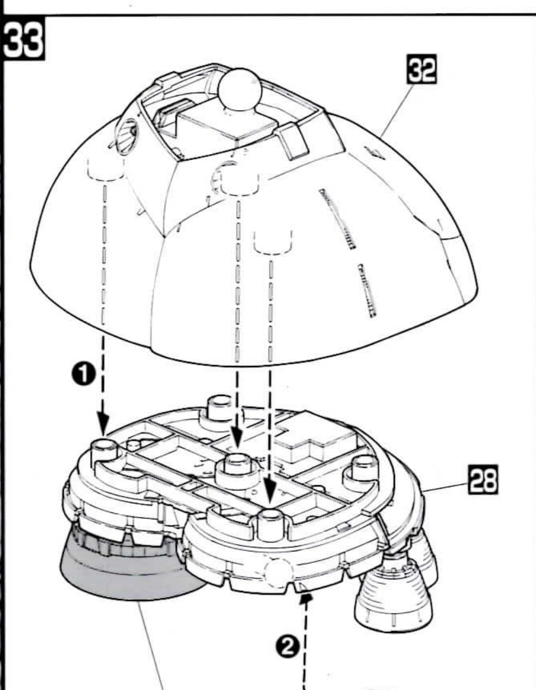
## 31



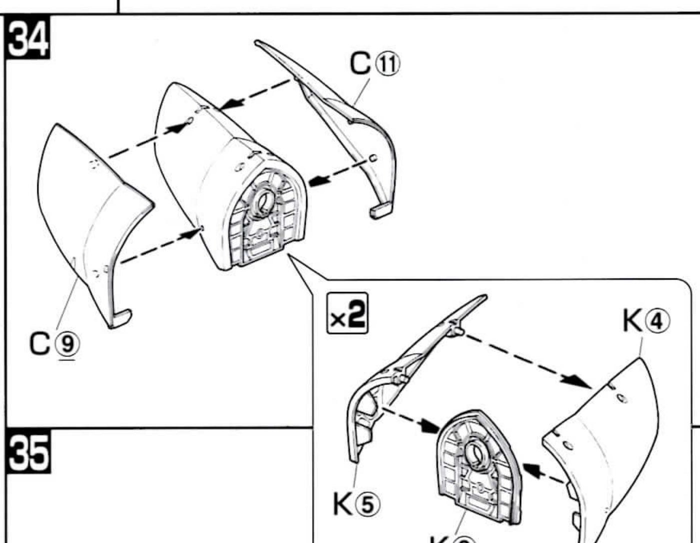

## 32



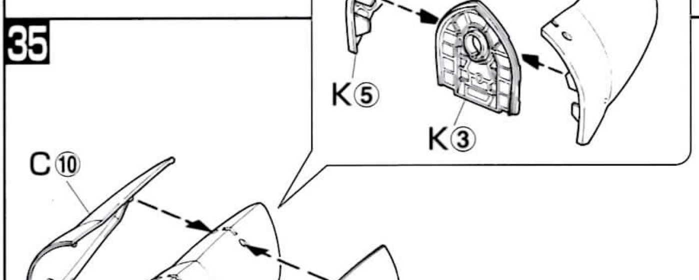

## 33

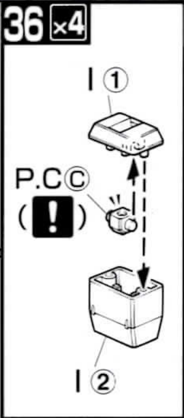


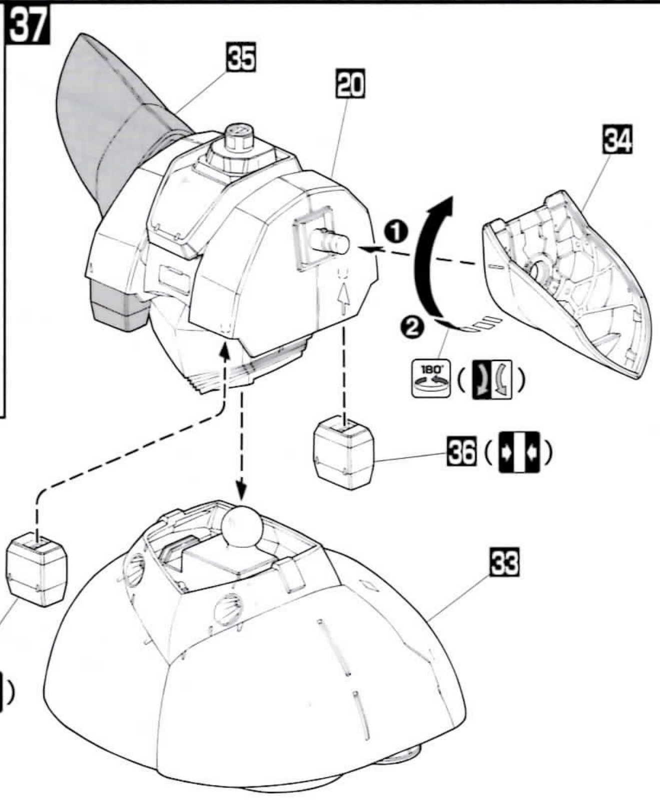

## 34

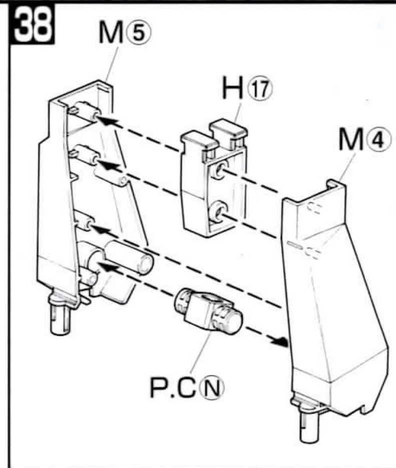


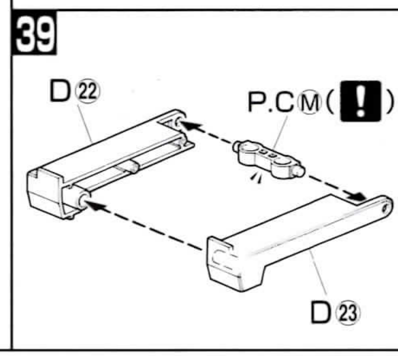

## 35

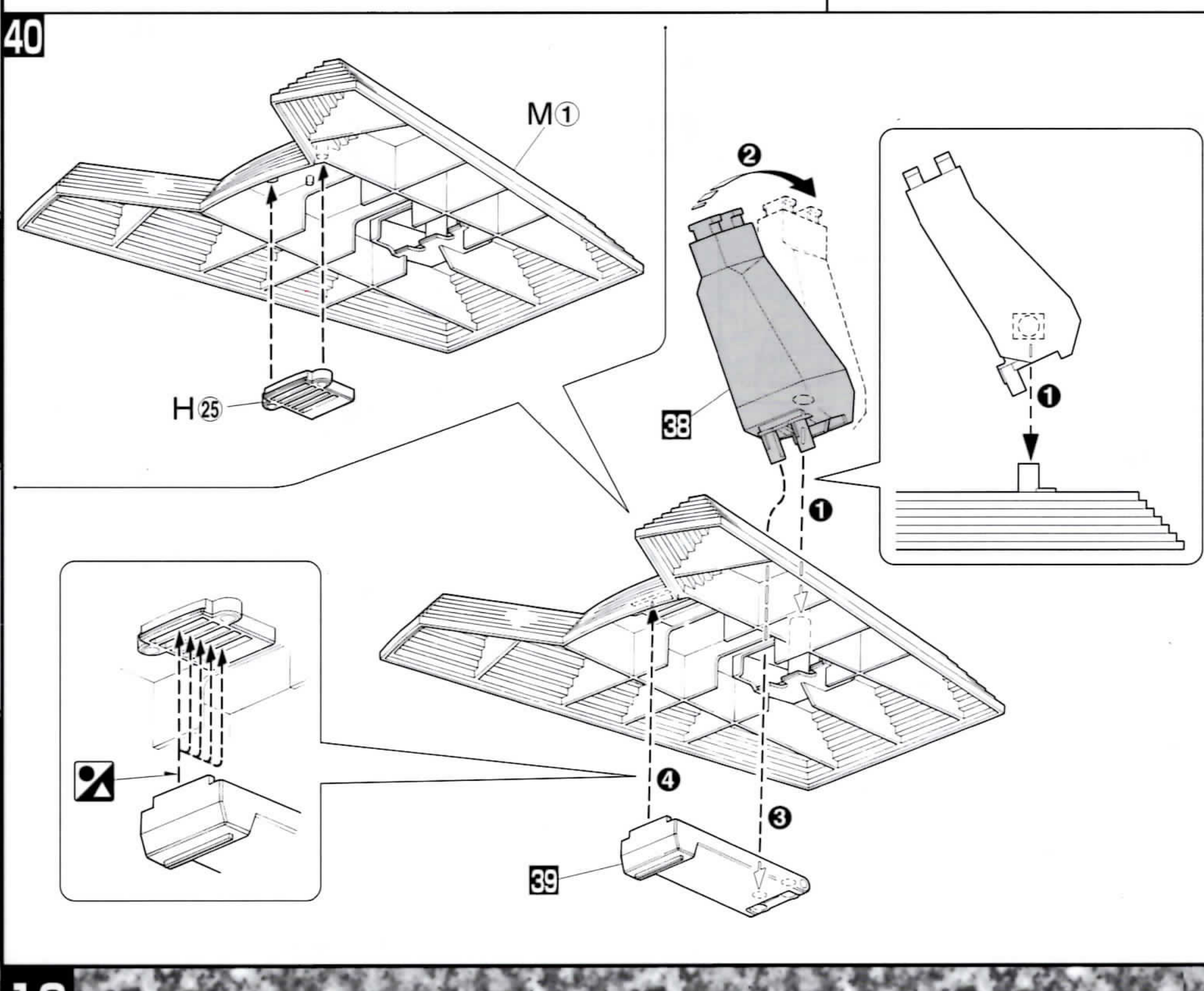



36 ×4
I ①
P.C Ⓒ
I ②

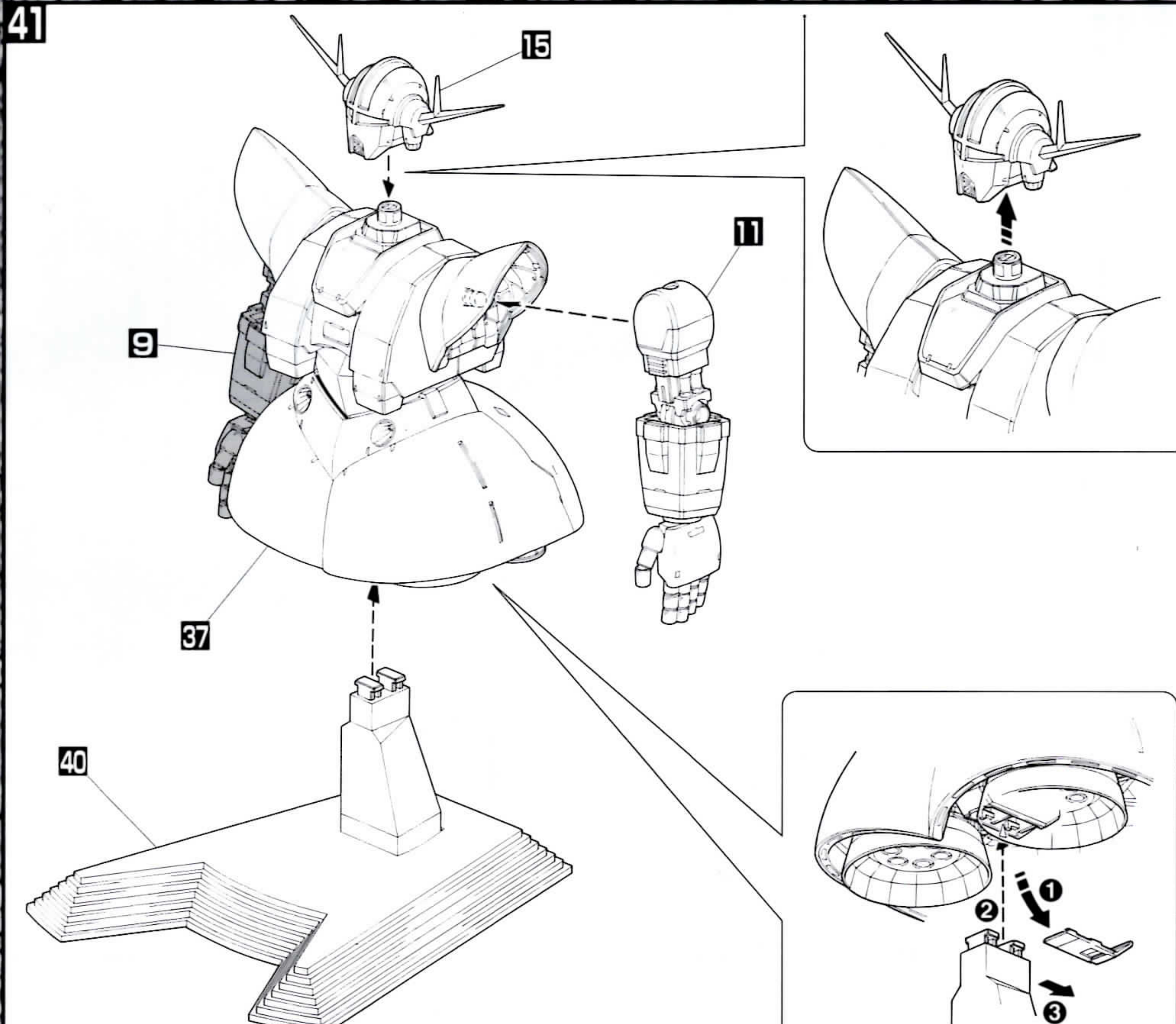

37
35
20
34
❶
❷
180°
36
33
36


38
M⑤
H⑰
M④
P.C Ⓝ


39
D㉒
P.C Ⓜ
D㉓

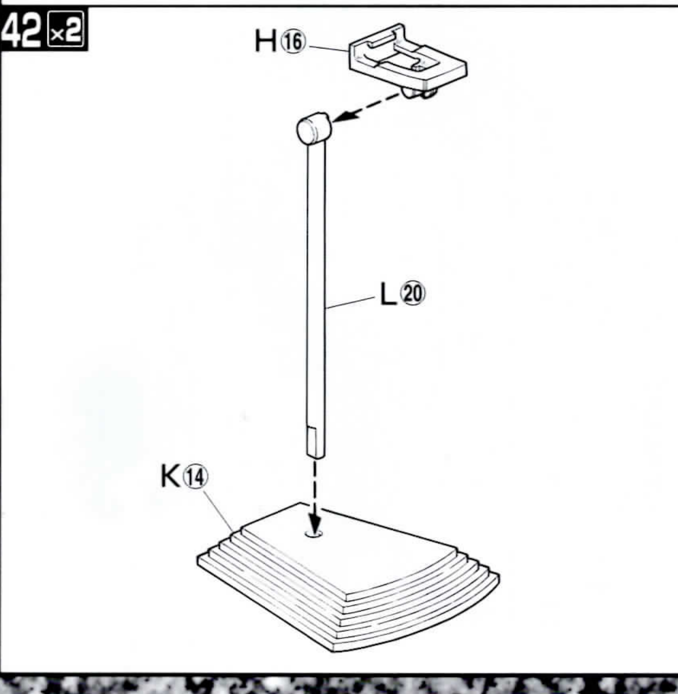

40
M①
H㉕
❷
38
❶
❹
❸
39

## 41

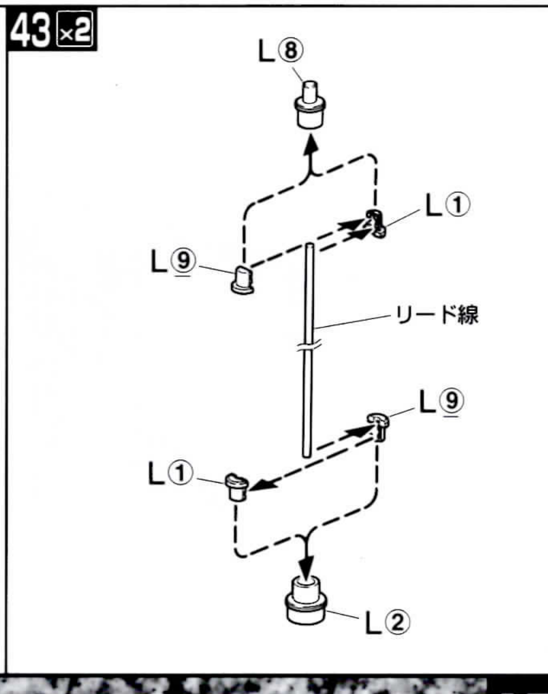



※D⑦は好みの場所に飾ってください。

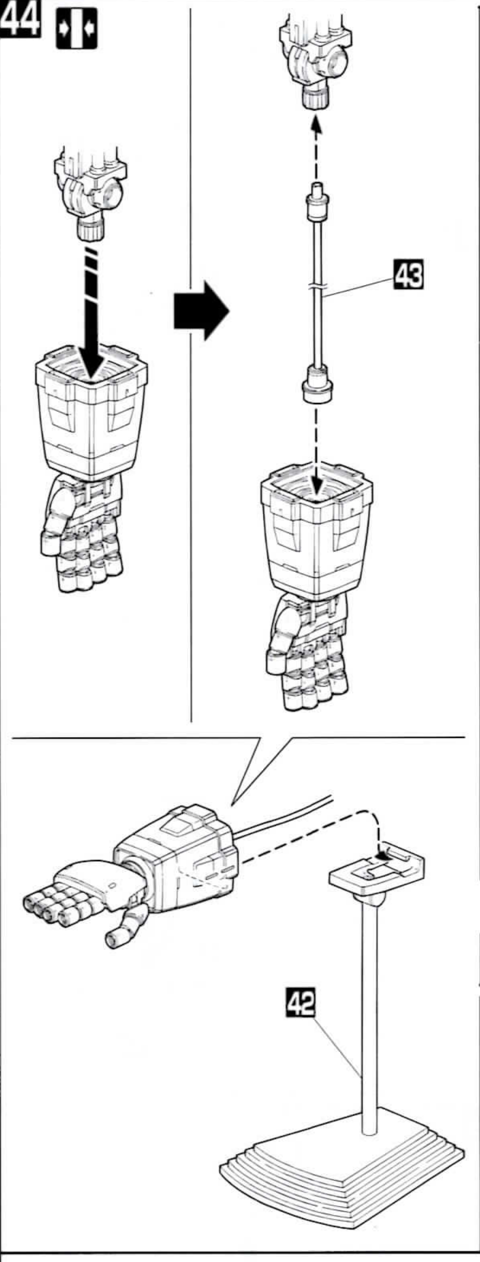
## 42 ×2

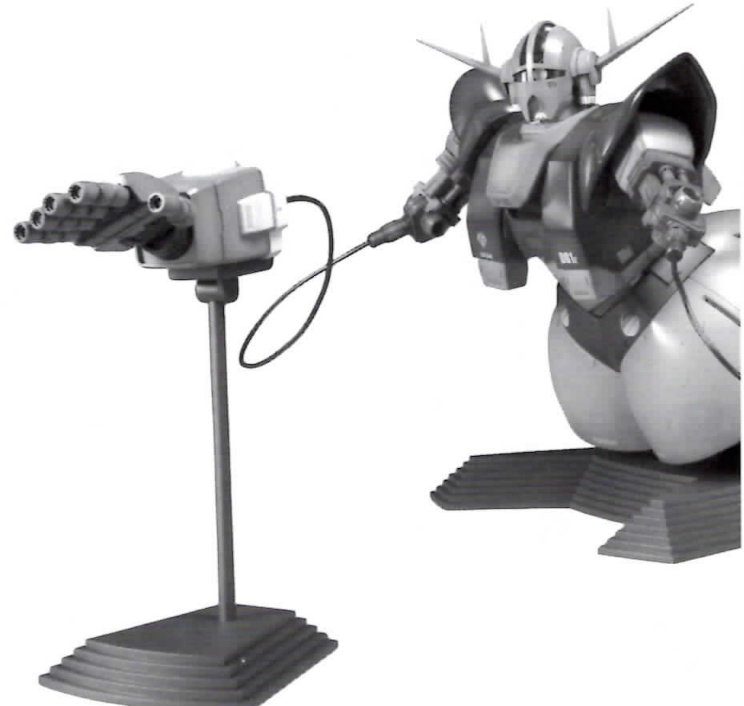


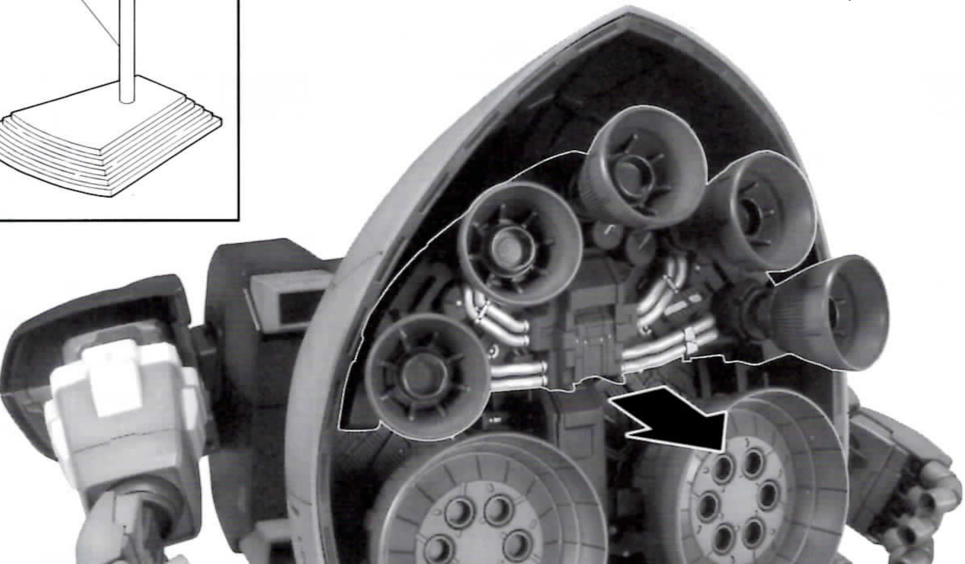

## 43 ×2



44

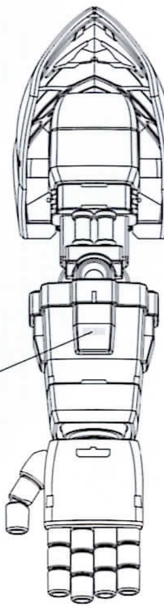


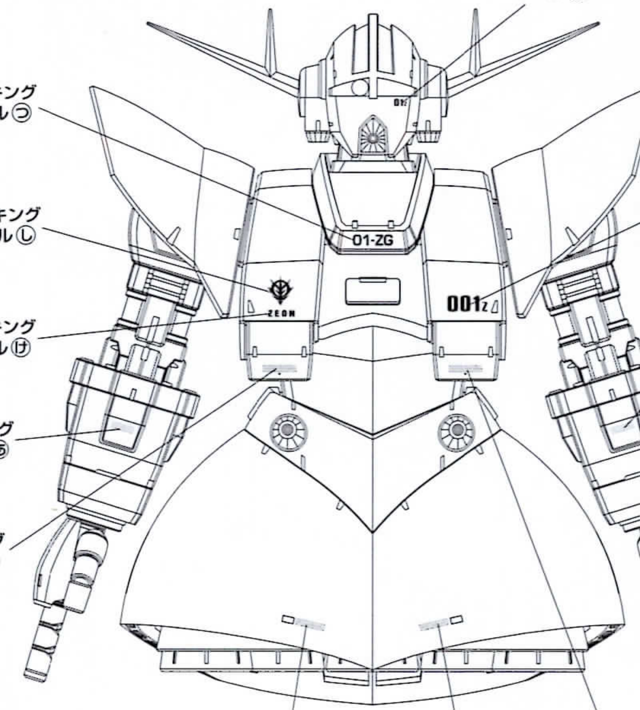



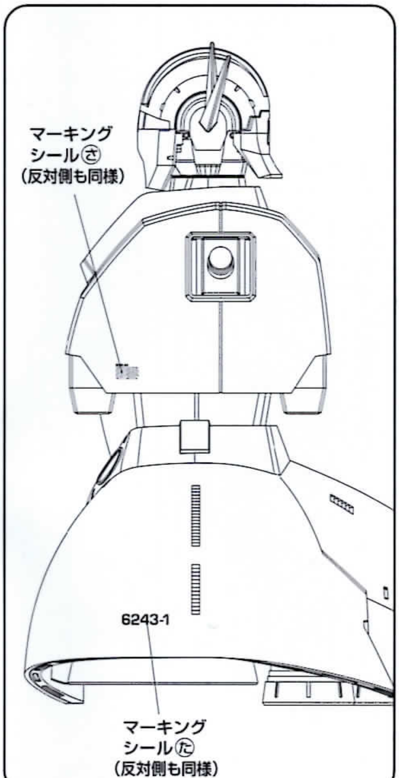


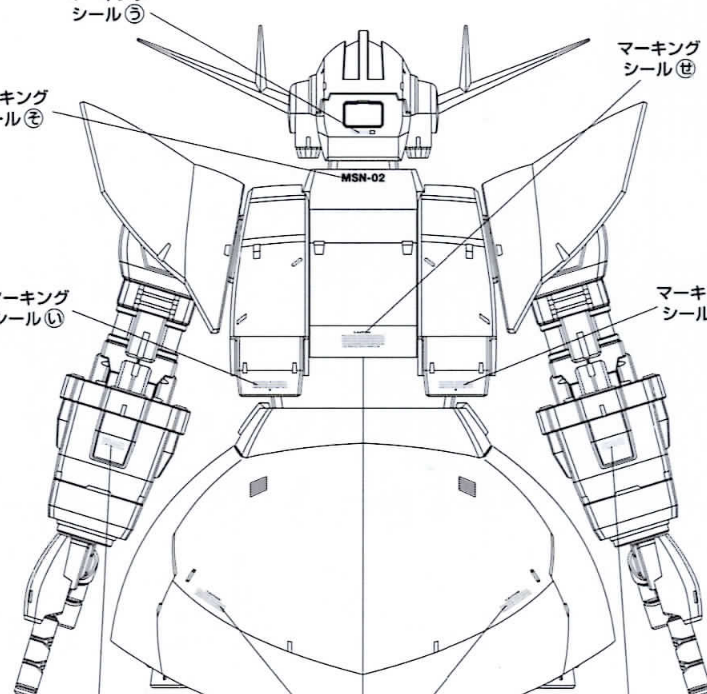
## Seal
〈シール〉

下の図を見て、マーキングシールのはる位置を確認してください。




※余ったマーキングシールは好きな所にはってください。




MASTER GRADE

ジオン公国軍
ニュータイプ専用モビルスーツ
MSN-02「ジオング」
1/100 スケール
マスターグレードモデル

# MSN-02 ZEONG

## PRINCIPALITY OF ZEON MOBILE SUIT FOR NEWTYPE